

# ボード会議議事録

外部評価としてのまとめ

令和2年4月8日  
東京大学先端科学技術研究センター

令和元年度に係る業務の実績に関するボード会議助言・意見

○令和元年度に係るボード会議の内容・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

．評価の項目・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5

．評価の分析・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6

○令和年度に係るボード会議の内容

東京大学先端科学技術研究センター(先端研)のボード会議は、運営状況を常時把握し、運営全般に対する助言及び評価を行っている。

本年度は、下記の日時において会合を開催した。また、当日ご欠席のメンバーについては、日時を改め助言および評価を得た。

日 時：令和元年 11 月 15 日(金) 16:00～18:00

場 所：先端研 13 号館 109 会議室

出席者：以下のとおり。

【ボードメンバー(50音順、敬称略)】

氏名	所属	職名
大隅 典子	東北大学	副学長
大西 隆	豊橋技術科学大学	学長
小泉 英明	(株)日立製作所	名誉フェロー
小松崎 常夫	セコム(株)	顧問
西村 陽一	(株)朝日新聞社	常務取締役
晝馬 明	浜松ホトニクス(株)	代表取締役社長
増田 寛也	(株)野村総合研究所	顧問
武藤 敏郎	(株)大和総研	名誉理事

【先端研】

氏名	所属	職名
神崎 亮平	生命知能システム分野	所長、教授
中村 尚	気候変動科学分野	副所長、教授
近藤 高志	高機能材料分野	副所長、教授
石北 央	理論化学分野	教授
小泉 秀樹	共創まちづくり分野	教授
杉山 正和	エネルギーシステム分野	教授
牧原 出	政治行政システム分野	教授
熊澤 鉄也	事務局	事務長
海老澤 幹夫	経営戦略企画室	副室長

欠席されたメンバーとの面談日時は、次のとおり。

12月24日(火)16:30-17:00 小林 喜光/(株)三菱ケミカルホールディングス 取締役会長

○令和元年度に係るボード会議の内容（会議議事次第・内容）

◆16:00 - 17:30 事業報告（プレゼンテーション）

先端研所長の神崎亮平教授他、先端研経営戦略会議のメンバーより、資料に基づきプレゼンテーション形式にて、令和元年度における先端研の事業活動について、説明を行った。内容としては、若手の人材を育成すること、地域との連携を推進すること、多様な人々活躍できるインクルーシブ・デザイン・ラボを提供すること、グローバルセキュリティー研究分野をすすめること、そしてアートやデザインと科学技術の融合プロジェクトをすすめることの5つであった。特に、事務局より熊澤事務長による報告もあり、所全体としての報告体制となった。

◆17:30 - 18:00 事業報告(質疑応答)

大隅委員が議長となり、各委員から助言・意見をいただいた。助言・意見の概要は後述する。多岐にわたり多くの意見・助言があり、「外部評価」としてまとめ分析することができた。

◆18:00 - 18:30 ラボ視察

会議の終了後に、ボード委員による研究室の見学を実施した。なお、ラボ視察から、東京カレッジにより招聘された元台湾科学院・院長でノーベル化学賞受賞者である李遠哲先生も参加された。見学した研究室は、杉山研究室と完成した若手アライアンスの研究室である。杉山研究室では、素蓄電による自立型再エネ電力供給システム～水素でGO!のデモンストレーションを視察した。

◆18:30 - 20:00 懇談会

ボード会議委員および先端研教職員による懇談会を開催した。経営戦略会議メンバーの教員が参加し、議論が活発に交わされた。

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

・評価項目

ボード会議メンバーの意見を助言および評価として、つぎの内容としてまとめた。

	項目	助言、評価の内容
1	研究力	(1) 研究活動の社会実装の進展がある (2) 多様性のある研究体制がある (3) アート、デザインと科学技術の融合が新しい分野と感じられる
2	人事体制	(1) インクルーシブな組織運営がある (2) 多様性ある人材確保が課題である 女性教員の採用をすすめるべき
3	財務体制・社会連携	(1) 各自治体などとの包括連携への期待がある
4	教育	(1) 地方大学への研究アドバイスの可能性 がある
5	その他	(1) 学生の視点からの広報活動など

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

・評価の分析

研究力、人事体制、財務体制などに対する助言ならびに評価としての観点から、内容を項目別に整理し、次のように分析をすすめた。

分析項目	内容
評価事項	優良な、あるいは順調に進行していると評価された内容のもの
検討事項	事業推進にあたり検討するものとして助言をいただいたもの
付帯意見	事業推進にあたり念頭に置くべき事柄として助言のあったもの

1. 研究力

先端研では、研究成果の社会実装が展開されていることに評価があった。また、多様な研究者が集まっていることへの評価もあった。新しい、研究分野としてのアートへの期待があった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
研究力	研究活動の社会との関係において、社会実装がすすんでいる。 研究成果の報告にあたり、インクルーシブソサエティー、その前提となるダイバーシティ、多様性をもって、研究者が集っている。	アート、デザインと科学技術の融合は、都市のフューチャーデザインなど、科学のデザイン思考として理解できる、あたらしい分野として具体的にすすめるべき。	先端研の研究にあっては、Society5.0のコアとなるような研究をすすめて欲しい。研究の結果として一般にはサービスチェーンで便益が供給される。  先端研は、日本の科学技術の一番先頭に立って、将来に発展させていく存在である。研究大学の持つ使命感を一番大切にすべき。いろいろな工夫で先端性を磨き、もっとアピールすべき。

## 2. 人事体制

研究・教育部門と事務部門の連携がインクルーシブに高いことが評価された。女性の活用、採用について、目標数値を持つべきとの意見があった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
人事体制	ボード会議のプレゼンテーションが事務部からもあったということに、教員と事務部門の関係の良さ、インクルーシブさがまさに実践されている。	意見なし	女性の活用、採用について議論がなかった。女子学生の目線にたった、ロールモデルの採用育成が必要である。女性が3割を超えているのが、目処ではないか。

## 3. 財務体制・社会連携

地域連携を進めるにあたり、地方自治体の財務活動への制度面の課題の整理、テクノロジーを生かした地域共創リビングラボの課題解決への意見があった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
財務体制	意見なし	<p>包括連携のしくみを活かして、遠隔医療、自動走行、遠隔教育といった、5G、4Kの活用を地域ですすめる。</p> <p>地域共創リビングラボの活動として、最近の大型台風などによる災害における防災、復興というもの、また気象科学からの予測まで含めた、検証をコミュニティの問題として取り組む。</p>	<p>地方自治体の財務活動も中央からの縛りがなくなりつつある。いろいろとすすんできているが、制度面での課題がないか整理する。</p> <p>共創、共生という連携で、ダイバーシティを重視することが求められる</p>

#### 4. 学生教育

地方の大学教育に対する支援や、学生教育においてアート思考が大切ではないかとの意見があった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
その他	意見なし	意見なし	地方の大学教育に対する、トップレベルの研究の見地からのアドバイスをする。地方では企業が助成していることもある。  学生のやる気、パッションを醸成するのに、アート思考は大切だ。MITではQED (Quantum Electro Dynamics)を教員と学生で演劇で表現している。

#### 5. その他

先端研の広報活動に対する評価があった。また、国際展開に際して、グローバルスタンダードの見地を持つことが意見された。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
その他	斬新なパンフレット、その記事も学生目線に立った内容、Webによる発信など広報活動が素晴らしい	意見なし	国際展開にあたっては、グローバルスタンダードの見地が重要である。手本としては北欧諸国が良いのではないか。